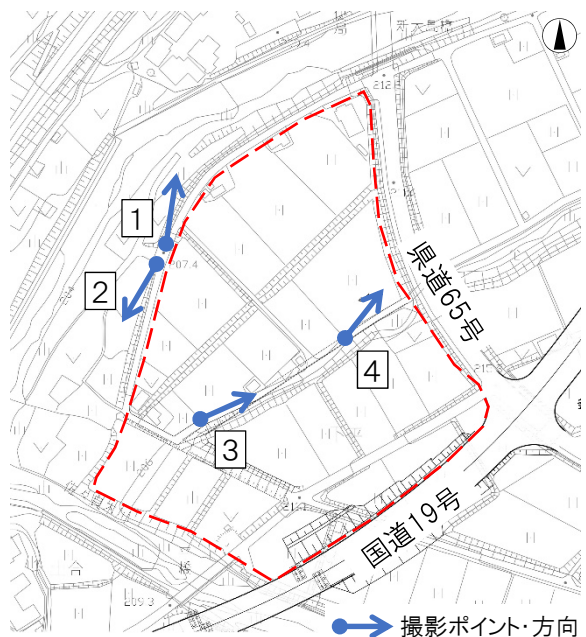


施設の配置計画・ 河川の活用と広場の整備

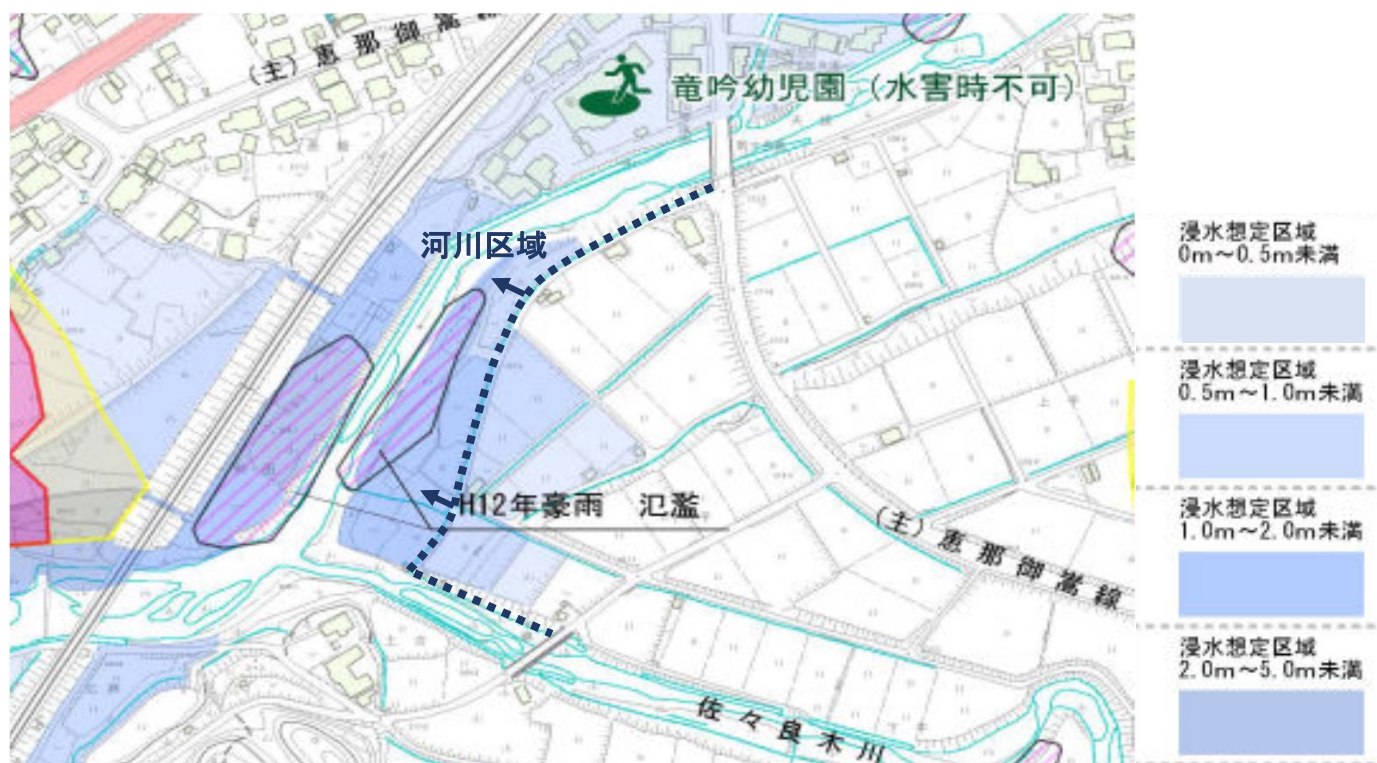
計画地周辺の現況 ～地形～

➤ 計画地は計画地内や前面道路と高低差があるため、施設配置を考える上では、敷地造成を踏まえて検討する必要があります。



計画地周辺の現況 ～災害～

- 瑞浪市では、水害時の浸水想定をハザードマップで示しています。
- 施設配置を考える上では、災害時の影響も踏まえて検討する必要があります。



50年に一度相当の規模

【24時間総雨量】 小里川合流点より 下流:305mm 上流:211mm

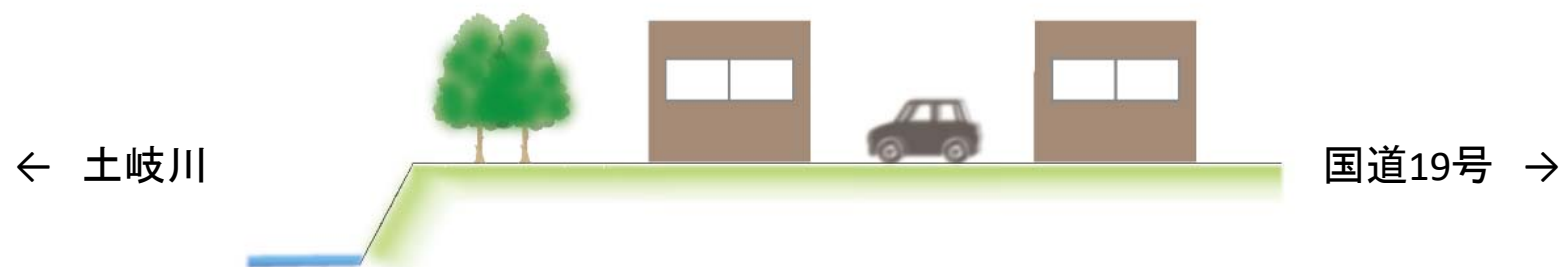
出典:「瑞浪市土砂災害ハザードマップ No.51町屋地区」から抜粋

施設配置の考え方 ～断面イメージ～

A案: 現況の地形を生かす

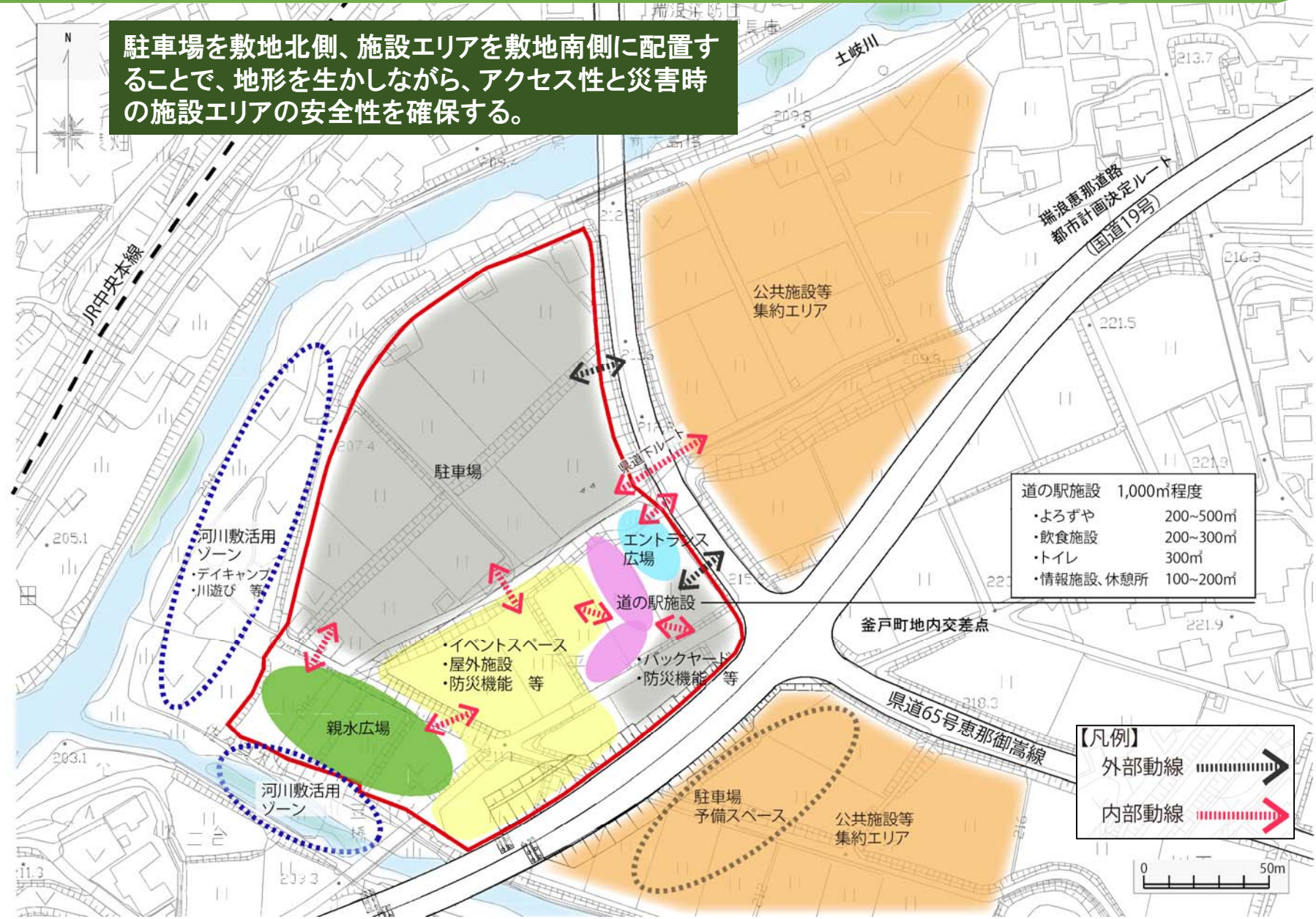


B案: 敷地の高低差を少なくする



ゾーニングイメージ A案

駐車場を敷地北側、施設エリアを敷地南側に配置することで、地形を生かしながら、アクセス性と災害時の施設エリアの安全性を確保する。



道の駅施設 1,000㎡程度	
・よろずや	200~500㎡
・飲食施設	200~300㎡
・トイレ	300㎡
・情報施設、休憩所	100~200㎡

【凡例】

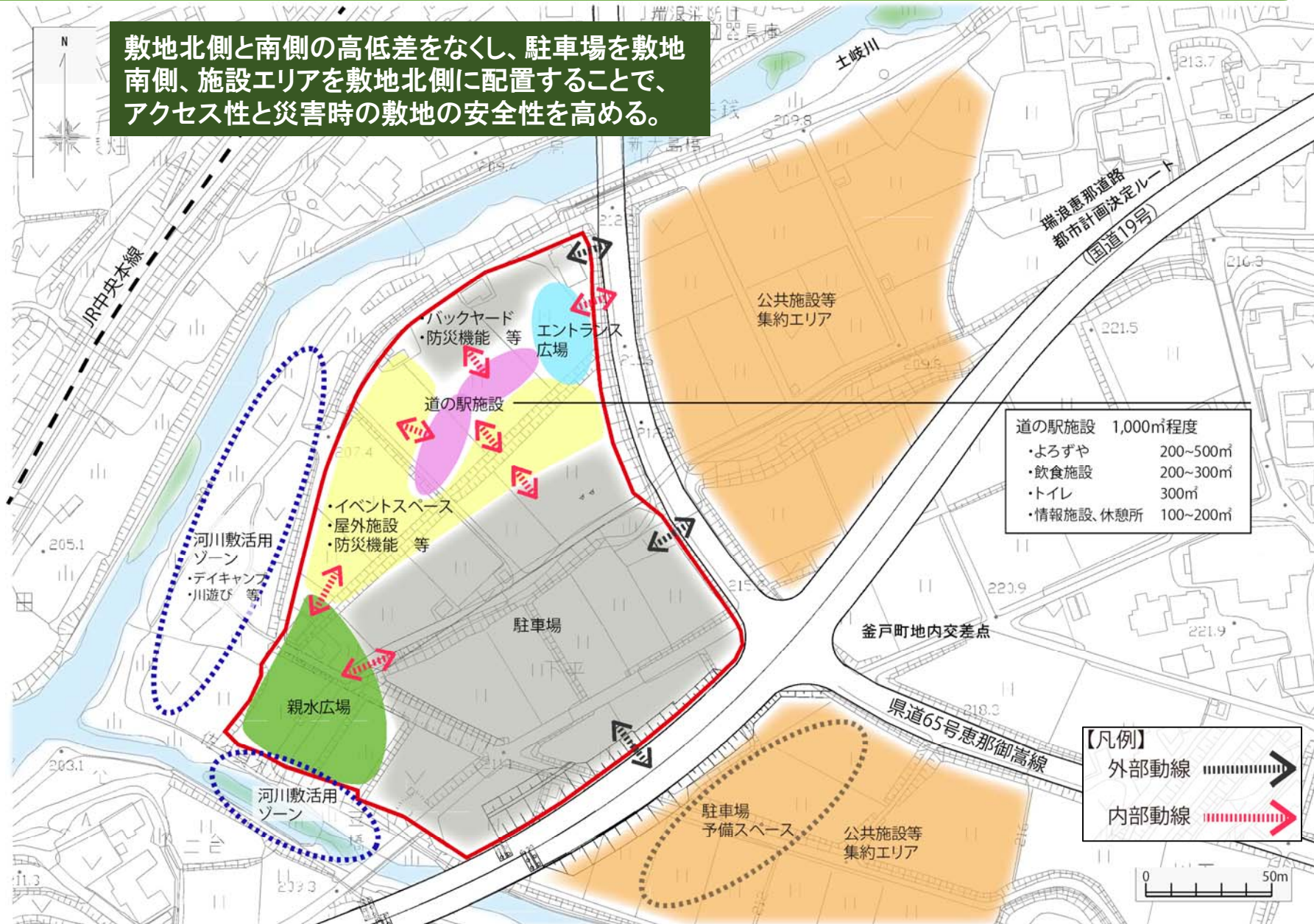
外部動線

内部動線



ゾーニングイメージ B案

敷地北側と南側の高低差をなくし、駐車場を敷地南側、施設エリアを敷地北側に配置することで、アクセス性と災害時の敷地の安全性を高める。



項目	A案: 現況の地形を生かす	B案: 敷地の高低差を少なくする
車両動線 歩行者動線	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量の少ない県道からアクセスするため、安全に出入りできる。 ・歩行者は歩道があるため安全にアクセスできる。 ・県道の交通量が増えるため、交通安全面の配慮が必要。 ・仮に国道からアクセスする場合、敷地内の高低差処理のため、自動車用スロープを設置しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道と駐車場との高低差が少なく、国道からアクセスできる可能性がある。 ・歩行者は歩道があるため安全にアクセスできる。 ・進入口が国道と県道の交差点付近となり、交通安全面の配慮が必要。
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場と施設エリアが敷地の高低差で分離されるため、施設エリアの安全性を確保できる。 ・施設エリアから敷地全体に目が行き届きやすい。 ・現況の地形を生かすため、施設エリアと公共施設等集約エリアをつなぐ既設の県道下ルートから公共施設等集約エリアへ安全にアクセスできる。 ・駐車場および親水広場と施設エリアに高低差があるため、バリアフリーに配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地を水害時の影響の少ない高さに造成することで、敷地全体の安全性を確保できる。 ・敷地に高低差が少なく、バリアフリーの面で有利である。
利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設エリアが敷地南側に集約されるため、施設間の連携を図りやすい。 ・駐車場が河川敷活用ゾーンに近く、車からの荷物の運搬が容易である。 ・施設を配置できるエリアが限定的であり、河川敷活用ゾーンとの連携には不利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地に高低差が少ないため、施設を一体的に利用しやすい。 ・建物配置の自由度が高い。 ・施設エリアが河川敷活用ゾーンと近く、一体的な利用が可能。 ・親水広場が施設エリアから離れるため、イベントスペース等との一体的な利用が難しい。
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の正面が線路側となる。また歩行者からも施設が見えやすい。 ・国道から施設エリアの距離が近く、国道利用者から認識されやすい。 ・現況の地形を生かすため周囲への圧迫感を抑え、水辺との一体的な景観を形成しやすい。 ・施設エリアが高台となるため視界を遮るものがなく、景色を見渡すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川と高低差ができるため、水辺との一体的な景観形成が難しい。 ・敷地北側の地盤面が現況より高くなるため圧迫感があり、護岸が目立つ。 ・バックヤードが川に面するため、景観上の配慮が必要。

建物の造りを工夫することで、地形を生かしながら、アクセス性と災害時の敷地の安全性を高める。

← 土岐川

国道19号 →



親水広場を広く確保でき、水辺や河川敷活用ゾーンとの一体的な景観を形成しやすい。

災害時の安全性を踏まえて、建物の造りを工夫しなければならない。

施設エリアから河川敷活用ゾーンまで一体的な利用が可能である。



道の駅施設 1,000㎡程度

・よろずや	200~500㎡
・飲食施設	200~300㎡
・トイレ	300㎡
・情報施設、休憩所	100~200㎡

【凡例】

外部動線

内部動線



釜戸町の施設概要と集約によるメリット

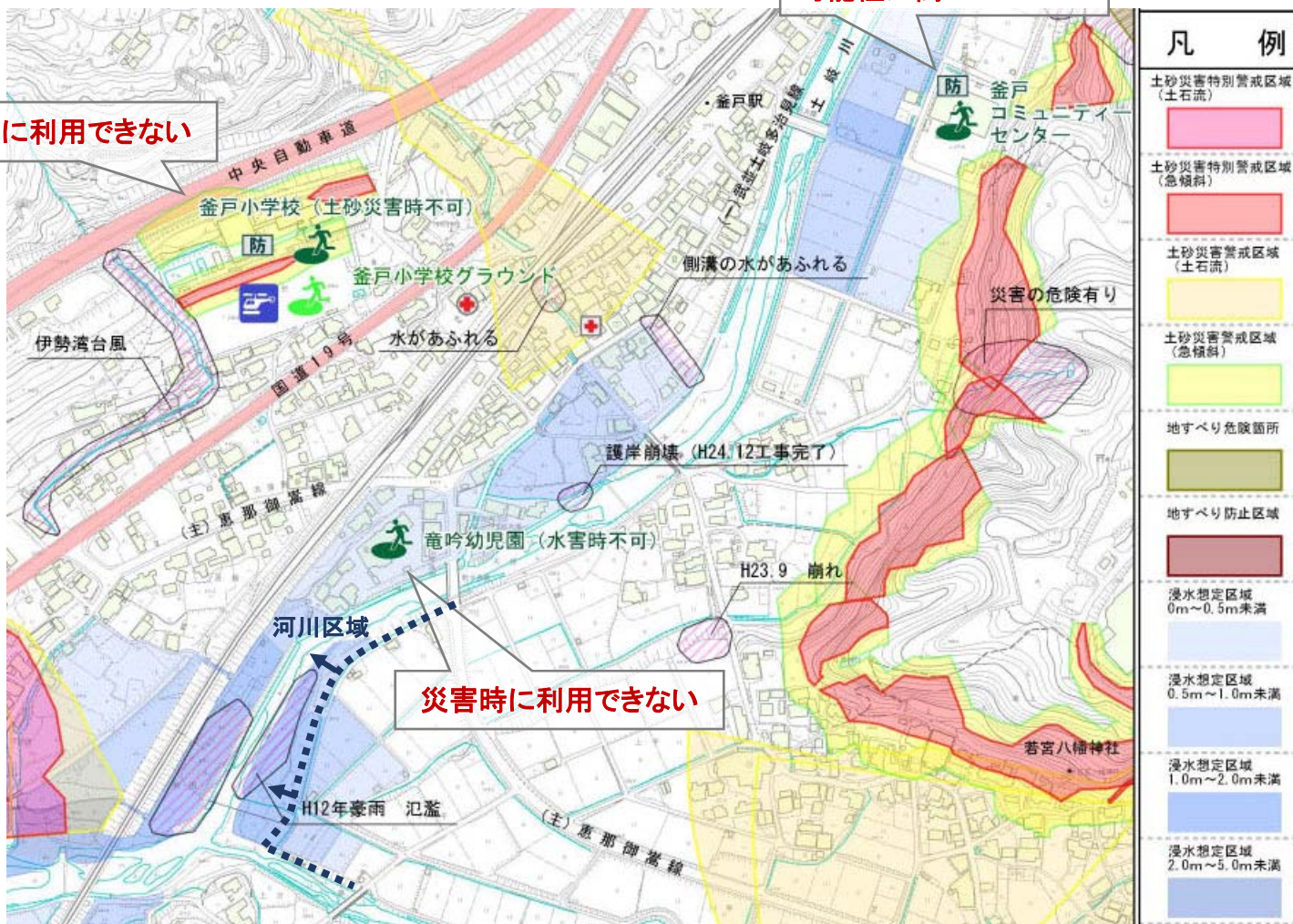
施設名称	竣工	築年数	敷地面積	延床面積	集約によるメリット	
釜戸コミュニティーセンター	H10	21年	6,960㎡	1,172㎡	◎	・道の駅と一体となった取組みが可能。 ・広場等の利用が可能。
竜吟幼稚園	S54	40年	2,702㎡	940㎡	◎	・利用時、送迎時に道の駅施設を利用し易い。
消防団器具庫	S56	38年	218㎡	109㎡	○	・防災性の向上。
小学校	S59	35年	18,848㎡	3,484㎡	△	・広場等の利用が可能。 ・必要な敷地面積が大きい。
郵便局	—	—	500㎡※	—	○	・利便性の向上。他機関施設。
交番	H10	21年	250㎡※	—	○	・安全性の向上。他機関施設。
銀行	—	—	500㎡※	—	○	・利便性の向上。他機関施設。

※地図よりおよその面積を算出

釜戸町の施設 ～公共施設・防災機能～

災害時に利用できない

災害時に利用できない
可能性が高い



災害時に利用できない

50年に一度相当の規模

【24時間総雨量】 小里川合流点より 下流:305mm 上流:211mm

出典:「瑞浪市土砂災害ハザードマップ No.51町屋地区」から抜粋

地域の交流を活性化する

⇒施設の集約により、**地域や世代を超えた人々との交流**を生み出す。

⇒イベントの開催や店舗の出店等により、**商業を活性化し、利便性を向上**。

フリーマーケット
(釜戸町まちづくり推進協議会)



道の駅と機能を兼用する (駐車場、ホール、会議室、調理室等)

⇒**コストを削減**できる。(建設費、維持管理費、修繕費等)

⇒**施設稼働率が向上**する。(平日:地域住民 週末:道路利用者)

地域のインフォメーションコーナー
(岐阜県 みんなの森 ぎふメディアコスモス)



災害時の安全性を確保する

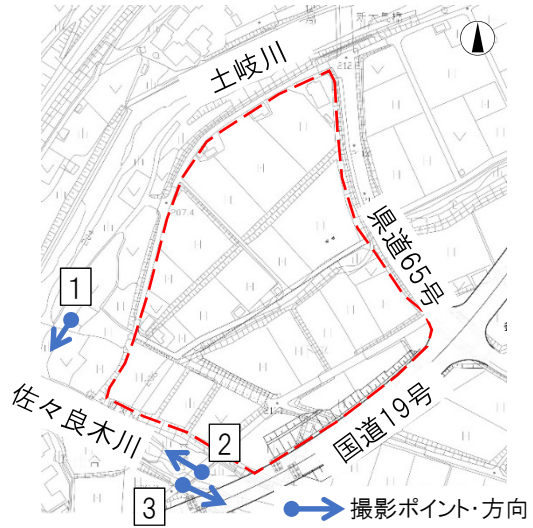
⇒地域の**防災機能を強化**する。(情報提供、炊き出し、支援物資の集配等)

⇒道路利用者の**一時避難所を提供**する。(トイレ、飲食物等の提供)

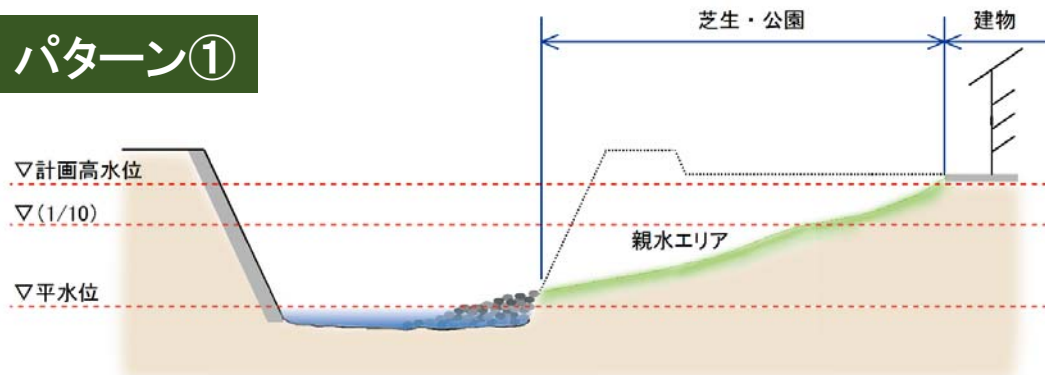
マンホールトイレ
(愛媛県 道の駅天空の郷さんさん)



計画地の現況 ～河川敷～

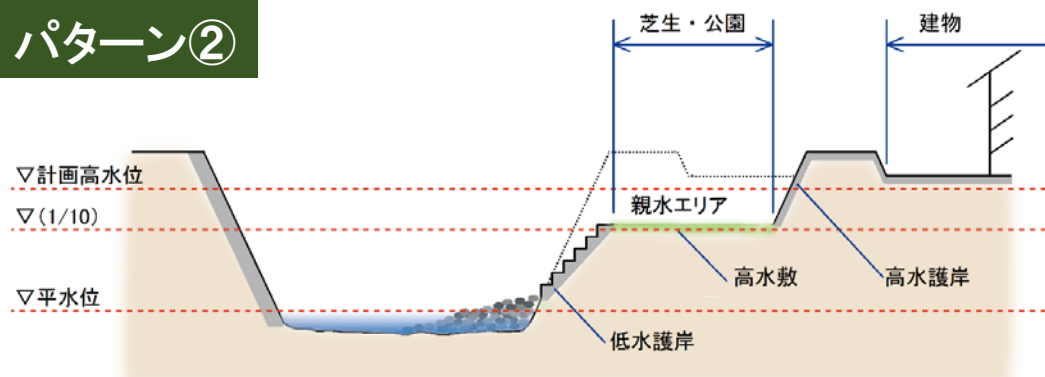


パターン①



- 芝生区域は、ある程度の冠水頻度とする。
(1/5又は1/10等)
- 公園区域も冠水する可能性のある区域とする。
(1/10又は1/20等)
- 建物区域は河川計画上、浸水しない区域とする。

パターン②



- 計画地内は計画高水位以上とし、浸水しない造成高とする。
- 高水敷エリアを整備し芝生・公園区域として利用する。
- 親水性を高めるため、低水護岸は階段タイプとする。

整備方針(案)

- 土地の魅力を引き出すため、親水性が高く、河川敷と敷地とが分断されることなく、なだらかにつながる**パターン①**による**広場の整備**を目指します。
- ただし、**パターン①**による整備は河川管理上の課題もあるため、今後の協議状況に応じて、**パターン②**を組み合わせ、**良好な景観と安全性の両立**を目指します。
- 今後の詳細検討により、河川改修等を実施し**浸水水位を下げる**ことも検討する。